

民事訴訟法概説(九訂版)



監修 : 裁判所職員総合研修所
 定価 : 本体 2,381 円 + 税
 判型 : B5 判
 ページ数 : 174 ページ(本文 142 ページ)
 ISBN : 978-4-906929-29-0
 発行 : 平成 26 年 5 月

内容

本書は、民事訴訟法を初めて学ぶ裁判所職員向けに裁判所書記官研修所の教材として、昭和40年3月に初版が刊行されて以来法改正等に伴い所定の改訂等が加えられてきたもので、司法協会としては、平成5年3月の六訂版から刊行を行ってきたものです。

今回の九訂版は、平成19年の「犯罪被害者等の権利利益の保護を図るための刑事訴訟法等の一部を改正する法律」、平成23年の「民事訴訟法及び民事保全法の一部を改正する法律」等が施行されたことに伴う改正点を盛り込み、平成18年11月の八訂補訂版から7年ぶりに改訂されたものです。

前記の改正等に伴い、第4章に裁判権の説明が追加され、また、随所で引用される条文の追加、変更が行われたほか、今回の改訂を機に、具体的設例の設定年度を新しく改めたものです。

目次(抄)

第1章 民事訴訟の意義	第1 訴状審査	第1 意義
第1 民事訴訟制度	第2 訴状の送達	第2 訴訟要件の種類
第2 民事訴訟制度の目的	第3 口頭弁論の準備	第3 訴えの利益と当事者適格
第2章 民事訴訟法	第6章 口頭弁論期日の経過	第9章 裁判によらない訴訟の完結
第1 意義	第1 訴状陳述	第1 当事者の行為による訴訟の終了(処分権主義)
第2 私法と民事訴訟法との関係	第2 被告の答弁	第2 訴えの取下げ
第3章 訴えの提起	第3 弁論主義	第3 請求の放棄・認諾
第1 訴えの提起	第4 主張責任・立証責任	第4 訴訟上の和解
第2 訴え提起の方式	第5 口頭弁論期日における当事者の欠席	第10章 終局判決
第3 訴状の記載事項	第6 口頭弁論の一体性	第1 判決の成立
第4 訴えと訴訟上の請求	第7章 証拠に関する諸問題	第2 判決の効力
第5 訴え及び訴訟上の請求の種類	第1 証拠の概念・種類	
第6 請求の特定	第2 証明の対象	別紙1 (訴状)
第4章 裁判権と管轄権	第3 証明を要しない事実	別紙2 (答弁書)
第1 裁判権	第4 自由心証主義	別紙3 (主張整理)
第2 管轄	第5 証拠調べ手続の概要	別紙4 (第一審訴訟手続の過程)
第5章 訴状受理から第1回口頭弁論期日まで	第8章 訴訟要件について	事項索引

表記訂正箇所	誤	正
i 頁 [設例] (甲野太郎の言い分) 10 行目	貸し付けた200万円	貸し付けた100万円